



福井県立大学
Fukui Prefectural University

No.119

2023 夏号

▶公式SNSで県大ニュース配信中!!



Twitter



Facebook

FPU NEWS

Fukui Prefectural University

特別企画

輸入品目を福井産へ!

福井県立大学 30周年研究プロジェクト

新役員等の紹介・新任教員の紹介

令和5年度 入学式を挙行了しました



4月7日(金)、永平寺キャンパス講堂で令和5年度入学式を挙行了しました。今年度は学部470名(編入学含む)、大学院49名の計519名が入学し、新たなスタートを切りました。また、永平寺町にある国内唯一のハーブ製造企業にご協力いただきハーブの記念演奏が行われ、新入生は美しいハーブの音色に聞き入っていました。

卒業生の就職率・県内就職者数 過去最高を記録!

令和4年度卒業生の就職率は過去最高の99.4%となりました。また、県内での就職者数は181人で、全体の55%となり過去最高を記録しました。キャリア教育やきめ細かな就職支援で学生の皆さんをサポートします!

日本税理士会連合会と覚書を締結



日本税理士会連合会は、大学生に税法や税理士制度の周知を目的として、全国各地で税理士による寄附講義を開講しています。3月27日(月)、本学と日本税理士会連合会は寄附講義に関する覚書を締結しました。今年度後期に地元税理士が講師となり、税制、会計、税法の解説や、税理士制度等についての講義が行われる予定です。

大邱カトリック大学校(韓国)と学術交流協定を締結



3月29日(水)、本学と韓国の大邱カトリック大学校は大学間学術交流協定を締結しました。これまで、同大学校の医療保健大学(学部に対応)と本学の生物資源学部において、2014年に学部間協定を締結し、教員・学生間交流を行ってきました。今後は交流を全学部へ拡大し、語学研修や専門分野で交換留学生の相互派遣・受入を行う予定です。

ワールドカフェ・オーシャンズエクスへ行こう!

カフェ機能を持つ国際交流拠点「World Café(ワールドカフェ)」と「Ocean's X(オーシャンズエクス)」。インストラクターによる英会話のほか、ワールドカフェでは留学相談、学生による語学勉強会や季節のイベントを開催しています(他キャンパスの学生には遠隔で対応)。

World Café

永平寺キャンパス共通講義棟2F
月~金/11:00~17:00



World Café 新インストラクター スニルさん

Ocean's X

小浜キャンパス学部棟1F
火・木/16:30~18:30
金/15:30~17:30



Ocean's X インストラクター メリダさん

オープンキャンパス2023 開催!

福井県立大学の魅力を高校生・保護者の皆様に知っていただくため、オープンキャンパス2023を開催します!

第1弾 プレオープン 令和5年 7月16日(日)

模擬授業や大学生による入試体験談、入試対策講座等を実施します!
場所 ● 永平寺キャンパス

第2弾 メイン開催 令和5年 8月6日(日)

各学部学科の紹介や施設見学などを行い、本学の魅力を教員や大学生が直接お伝えします!
場所 ● 永平寺、あわら、小浜、かつみの各キャンパス

※海洋生物資源学科は8/5(土)に「研究体験イベント」を開催します!
※創造農学科は8/13(日)にも同一プログラムで開催します!

白樺祭 開催!

福井県立大学学園祭「白樺祭」を下記のとおり開催します。皆様のご来場をお待ちしております!

[小浜キャンパス] 令和5年 10/7(土)、8(日)
[永平寺キャンパス] 令和5年 10/14(土)、15(日)
ステージ企画、アーティストLIVE、学科企画 ほか

福井県立大学ブックレット「福井学」シリーズ 刊行!

福井県立大学出版部

本学教員が中心となり、福井にまつわる研究成果を県民の皆様幅広く紹介するため、「福井県立大学ブックレット」として発刊しています。

福井県の地域公共交通

元経済学部教授 浅沼 美忠 著

福井の公共交通機関をテーマにして、地域鉄道の衰退と再生、コミュニティバス導入への市町の取組み、人口減少下の地域公共交通機関の課題と挑戦などをご紹介します。



ふくいの農業新時代

生物資源学部教授 森川 峰幸

元生物資源学部教授 向出 茂三 著

農業農村の役割と福井県農業の現状をもとに、農業と他産業とのつながりや次代を担う農業者の確保など、福井県が推進している農業行政をご紹介します。



価格:550円(税込)
福井県内書店をはじめ全国書店で販売中!



FPU NEWSについてご意見・ご要望をお寄せください。
抽選で県大グッズプレゼント!



福井県の気候に合う小麦を開発している研究用小麦畑(創造農学科村井耕二教授と学生の皆さん)



輸入品目を福井産へ!

福井県立大学 30周年研究プロジェクト

日本の食料自給率は38%と非常に低い水準です。こうした中、ロシアのウクライナ侵攻による穀物輸出量の激減や世界的な人口増加等による食料需要の拡大、気候変動による生産減少などにより、世界的な食料不足と食料価格の高騰を招いており、私達の日々の生活を脅かしています。

そこで、福井県立大学ではこれまでの研究実績を基に、輸入に頼っている食料を県産化するプロジェクトを立ち上げました。様々な食料の県産化に向けた研究開発を進め、「ふくい」で生まれた品種を「ふくい」の技術で生産することで、日本の食料安全保障と福井県の持続的な発展につなげることを目指します。

海洋生物資源学部

地域で完結する新規カキ養殖技術の開発

先端増養殖科学科

濱口 昌巳 教授 吉浦 康寿 教授 奥澤 公一 教授 富永 修 特命教授

小浜湾ではマガキの養殖が盛んで「若狭ガキ」として親しまれています。しかし、この養殖マガキは全て県外産種苗に頼っているのが現状です。そこで、小浜湾で天然発生した稚貝を採取して養殖する、「純小浜湾産」のカキ養殖技術を開発しました。

まず小浜湾内でマガキの浮遊幼生モニタリング調査を行い、採取時期やポイントを定めて天然稚貝の採取を行いました。こうして採取したマガキの稚貝を小浜湾内で養殖したところ、成長が早く、約7カ月で出荷可能なサイズとなりました。国内では数少ない一年ガキとして新たなブランドガキ「小浜はるかぜカキ(仮称)」の創設を目指します。



食用魚介類
自給率
59%



小浜はるかぜカキ(仮称)
イメージキャラクター

魚粉代替として 昆虫を活用した飼料開発

先端増養殖科学科 佐藤 秀一 教授
海洋生物資源学科 細井 公富 准教授

現在、我が国の水産養殖は魚粉中心の飼料を与える「魚で魚を作る養殖」が主体です。しかし、世界的な養殖魚の需要拡大により魚粉の価格は高騰しており、安定的な魚粉の入手が難しくなる懸念があります。また、SDGsの観点から魚以外のものを与えて魚を作ることが重要かと思われまます。

そこで、魚粉の代替タンパク質原料として、アメリカミズアブの粉末を配合した飼料の開発を進めています。マサバで飼育試験を行ったところ、魚粉の50%をアメリカミズアブに代替した飼料を与えてもマサバの成長が良く、脂ののりも増加することが分かりました。生産が容易な昆虫活用飼料の開発を進め、福井県の持続可能な水産養殖を目指します。



昆虫活用飼料

IoTを活用したスマート養殖

先端増養殖科学科 富永 修 特命教授

海面での魚類養殖は、飼料代が生産経費の60~70%を占めています。一方、給餌量は勘と経験に依存する部分が大きく、残餌の発生が生産コストの増大と養殖場の汚染につながっています。

そこで、食欲の時間変化をモデル化して、適切に自動給餌するシステムの開発を目指しています。本技術は、特別な機器を追加する必要がなく、給餌スケジュールのプログラミングで対応できるため、短期間での実用化が期待できます。



養殖場のふくいサーモン



サーモン
自給率
約20%

水産飼料用
魚粉自給率
32%

生物資源学部

福井県の気候に合うパン用小麦の品種開発

創造農学科 村井 耕二 教授

福井の気候に合う小麦としては、村井教授が開発した「ふくこむぎ」があり、現在うどん、ラーメン等様々な食品に使用されていますがパン向きではありません。そこで、福井県の気象状況に適した早生型パン用小麦の育成・開発を進めています。早生型の合成小麦を用いたレトロブリーディングというユニークな手法により、東北地方向けの晩生パン用小麦「ゆきちから」を早生化し、福井県の気候に適した早生型のパン用小麦を開発しています。

令和4年度の調査により、既存品種より早生化し、遺伝的にも安定した系統の育成が確認できました。新品種候補として「パンの丘(仮称)」と命名し、現在収穫物の調査を進めており、脱穀して製パン適性試験を行う予定です。

パン用小麦
自給率
数%



パンの丘(仮称)



大豆自給率
6%

福井県の気候に合う 大豆の品種選定と作型構築

創造農学科 森中 洋一 教授

大豆は完熟種子を利用する穀物(豆)としてばかりでなく、未熟種子も野菜(枝豆)として利用できます。

そこで、タンパク質源として大豆(豆・枝豆)の福井県内での栽培限界を把握し、効率的な作付けや土地利用に繋げることを目的とし、いつ種まきするといいつ開花、収穫の時期を迎えるか、どれだけの収穫量があるかなどについて調査しています。この調査を通して、福井県の気候に合う収穫量や収益性の高い大豆の品種選定や新たな作型の提案を目指します。



枝豆としての収穫期を迎えた大豆

肉類自給率
53%

植物性代替肉の 加工・調理方法の開発

生物資源学科 高橋 正和 准教授

世界人口が80億を突破した現在。動物性タンパク質の供給不足に備えて、代替食品の開発が世界レベルで急激に進んでいます。そこで、主原料に福井県産大豆を使用してハンバーグに類似した植物性代替肉の開発を進めています。

粒状大豆タンパクを原料に加えるとともに、スパイスの利用など調理方法を工夫することで、大豆臭を感じない肉らしい香りと食感の「大豆肉ハンバーグ」を開発中です。今後は県内食品業者と連携して共同開発を進め、完成度を高めるとともに、新しい代替肉食品の創出を目指します。



試作中の大豆肉ハンバーグ

県産乳酸菌によるチーズ開発

生物資源学科 日井 隆雄 教授

我が国のチーズの輸入量・消費量は年々増加しており、チーズの需要が益々高まっています。そこで、県産のソバから取得した福井生まれの乳酸菌を用いた新しい製法によるチーズを開発し、福井ブランドのチーズの創出を目指します。

まず、福井県産のソバから植物性乳酸菌を取得し、試験したところ、従来の乳酸菌と遜色ない旨味と腸内環境を整えるのに役立つ短鎖脂肪酸の高い産生能が確認されました。この植物性乳酸菌に最適なチーズ製法の開発を進めるとともに、食品としての新たな機能性について検証していきます。

チーズ自給率
14%



県産乳酸菌によるチーズ

シリアル食品原料の 穀物品種の開発

生物資源学科 西嶋 遼 助教

シリアル食品の原料となるオーツ麦は、国内では産地が北海道に限られるなどの栽培適地の狭さや生産性の低さが問題となり国内生産が非常に少ない状態です。そこで、福井県の気候でも生産可能な収穫量の多いオーツ麦の品種開発を行います。重イオンビーム照射により変異誘発し、大学内の圃場で栽培して収穫量や育てやすさの優れた個体を選抜していきます。



オーツ麦

オーツ麦自給率
2%

健康生活科学研究科開設記念 公開講演会・シンポジウムを開催しました



教員による研究紹介



海堂尊氏による特別講演

5月31日(水)、本学永平寺キャンパスにおいて、2023年4月に開設した大学院健康生活科学研究科の開設を記念した公開講演会・シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、健康生活科学研究科の教員による、健康と生活に関する本学の研究紹介が行われました。続いて、本学客員教授の海堂尊氏(作家・医師)による「福井・蘭医学とAiの接点」をテーマとした特別講演が行われました。

健康生活科学研究科は、看護学と社会福祉学が融合し、健康から生活までの課題に対して領域横断的に「健康生活科学」研究を行い、「ウェル・ビーイング(健康と幸福)に向けた共生社会」を目指すために設置されました。

本研究科で学べる内容、教員情報等については健康生活科学研究科特設HPをご覧ください。

健康生活科学研究科
特設HP



アメリカ フィンドレー大学との 学生の相互訪問を実施しました!



本学学生のフィンドレー大学訪問



フィンドレー大学学生の訪問看護演習参加

学術交流協定に基づき、フィンドレー大学(アメリカ オハイオ州)との相互訪問を実施しました。まず2月10日から2月22日に、本学社会福祉学科の学生2名と看護学科の学生2名がフィンドレー大学を訪問し、高齢者の生活支援施設、障害者の生活・就労支援施設などで施設スタッフや利用者へのインタビューを行いました。

5月18日から6月9日には、フィンドレー大学の学生6名が来日し、本学の授業への参加や、県内の医療・福祉関係機関等への視察、調査等を行いました。

研修の様子は
「看護福祉学部国際交流FaceBook」



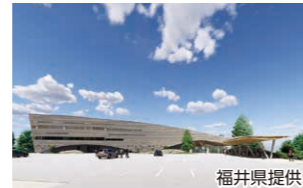
「手洗い教育リーフレット」を作成し 児童福祉施設に配布しました!



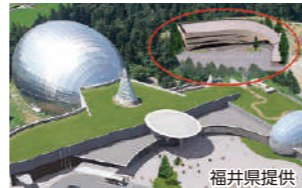
看護学科の東知宏准教授が、福井市内の認定こども園の手洗い教育の実態と幼児に対する効果的な手洗い教育方法について調査、研究を行いました。

調査では、手洗い教育を行った後1か月程度経つと、手洗い教育の効果が薄れ、手洗い時の手技に不備が多くなることが分かりました。そこで、効果的な手洗い教育方法を保育教諭とともに検討を重ね、認定こども園で実施したところ、手洗い教育の持続効果を高めることができました。この研究成果を基に、東准教授は、手洗い教育のためのリーフレットを作成し、福井県の協力を得て、福井県内全域の児童福祉施設に配付しました。

恐竜学部(仮称)学部棟の基本設計案をまとめました!



福井県提供



福井県提供

2025年4月に設置構想中である恐竜学部(仮称)の学部棟について世界的な建築家である隈研吾氏の「隈研吾建築都市設計事務所」(東京都)が基本設計を担いました。コンセプトは「かつやま恐竜の森の豊かな自然と隣接する恐竜博物館と調和し、世界の恐竜研究拠点にふさわしい新たなシンボルとなる建物」、「恐竜博物館の2つのドーム(タマゴ)を包み込むように弧を描く建物形状とするとともに、巨大な古生物の化石を想起させる有機的な建築」、「森に溶け込み、自然の雄大さや時間の重なりを感じさせる外装は、恐竜の化石が眠る地層をイメージ」です。

学部棟は福井県立恐竜博物館(勝山市)の隣接地に設置予定で、研究設備の共同利用や博物館研究員による講義の実施などを通して、連携を図っていく予定です。

※基本設計時のイメージであり、実施設計の内容と異なる場合(部分)があります

恐竜学部(仮称)
特設HP

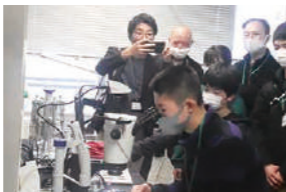


恐竜学研究所と福井大学医学部との共同研究開始! 医療用CTによる恐竜化石研究



恐竜学研究所が福井大学医学部法医学分野と共同で、医学部Aiセンターが所有する医療用CTスキャナを用いた恐竜化石研究を開始しました。AiセンターのCTスキャナを用いることで、工業用CTスキャナでは撮影できない大型恐竜の化石も撮影でき、複数回スキャンを行うことで一般的な医療用CTスキャナでは難しい化石のような硬い物体の内部も検査することができます。今後は県内外の恐竜化石を用いた撮影も行っていく予定です。

「足羽山むしむしスクール」の小中学生が 生物資源学科を訪問!



3月26日(日)に、福井市自然史博物館が主催する「足羽山むしむしスクール」の小中学生および保護者15名が生物資源学科を訪問し、最先端の生物学研究に触れる体験学習に参加しました。

顕微鏡での昆虫の形態観察、バナナからDNAを抽出する実験、生物学の先端研究に用いられている研究機器の見学などを行い、初めて研究用の高解像度顕微鏡で昆虫を観察した子供たちは興奮した様子で生物学の面白さに触れていました。

福井県大×福井工大コラボ実習「環境科学×先端IoT技術」



5月15日(月)、尾上幼稚園(福井市)の園児が県大農場で育てたイチゴの収穫、試食を行いました。このイチゴは、2021年12月に県大と福井工業大学とで共同開発した「IoT植物育成監視装置」により生育したイチゴで、園児たちは、事前にイチゴの生育状況を保護者のタブレット等で観察し、収穫体験に臨みました。

『福井県立大学つぐみ賞』受賞者紹介



生物資源学部 生物資源学科4年
川端 理希さん 齋藤 健人さん
国内初のクワガタ奇形個体の採集・飼育による新たな知見を確認し、その研究成果を福井市自然史博物館研究報告へ寄稿しました!

経済学部 経営学科3年
山田 嘉幸さん

第162回日商簿記検定試験1級に合格しました!



看護福祉学部 社会福祉学科4年
加藤 可菜さん(演劇部「劇回くらげ」)
福井県演劇連盟の2022年度表彰で企画賞を受賞しました!

本学関係者の著書紹介

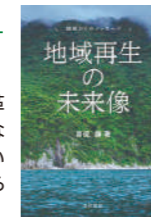
フローチャート消費税 —図解による消費税の課税関係—

経済学部 内川 毅彦 特任教授 著
(法令出版、2022)
消費税は全税目の中でも特に手続きの多い税金だが、その課税関係を将来予測により把握し、間違いや手続き漏れの予防に役立つよう、納税義務の判定、納付税額の計算、国際課税及びインボイス制度等について、その要件と手続きを図解により解説した実務本。



地域再生の未来像 —越前からのメッセージ—

南保 勝 名誉教授 著
(晃洋書房、2023)
低成長、自然災害、少子高齢化・人口減少、情報技術革新、グローバル化…。目まぐるしく変化する社会のなかで、地方は未来に向けてどのように存続・発展していけばよいのか。越前(福井)をモデルに、地域が地域らしく発展していくための方向性を模索する。



グローバルビジネスの流儀

池下 譲治 元地域経済研究所教授 著
(晃洋書房、2023)
国際ビジネスにおいては「郷に入っては郷に従え」が正解とは限らない。本書では、国や文化の違いと経営戦略上の含意、グローバルビジネスのルール、戦略としての国際ビジネス倫理、グローバル戦略の新たなトレンドなどについて、豊富な事例を含め解説している。



最新 政治・経済

経済学部 廣瀬 弘毅 教授 分担執筆
(文部科学省検定済み教科書)(実教出版、2023)
高校生向けの教科書。大学に入ってから必要になる知識や考え方も、高校で学ぶようになっている。



経済学史入門

経済学部 廣瀬 弘毅 教授 分担執筆
(昭和堂、2023)
経済学史の教科書だが、類書とは異なり、経済学の作法にあたる「方法論」からアプローチしたところが特色。



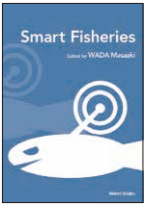
木本植物の被食防衛 変動環境下でゆらぐ植食者との関係

生物資源学部 角田 智詞 准教授 分担執筆
(共立出版、2023)
近年の温暖化を含む環境激変下での森林植物と昆虫類の相互作用に関して、昆虫の食害を植物が巧妙に防ごうとする姿(被食防衛)を解説する。植物生態学や保全生態学、森林保護学の学生から現場の実務者まで、今後の変動環境への戦略に向けた必携書である。



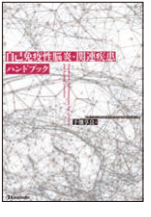
Smart Fisheries

海洋生物資源学部 渡慶次 力 准教授 共著
(Midori Shobo、2023)
スマート水産業とは、ICT、IoT等の先端技術の活用により、水産資源の持続的利用と水産業の産業としての持続的成長の両立を実現する次世代の水産業と定義されている。漁業、養殖業から流通に至るまでのスマート技術運用事例を105のトピックとして解説している。



自己免疫性脳炎・関連疾患ハンドブック

看護福祉学部 米田 誠 特命教授 分担執筆
(金芳堂、2023)
近年、免疫異常に伴う脳炎(自己免疫性脳炎)の範囲に含まれる疾患は増加の一途をたどっている。本書では、代表的な疾患が取り上げられ、それぞれの病態、検査、診断、治療について分かりやすくまとめられている。米田特命教授が慢性甲状腺炎に伴う「橋本脳症」について分担執筆した。



ナーシング・グラフィカ 病態生理学

看護福祉学部 米田 誠 特命教授 分担執筆
(MC メディカ出版、2023)
看護師・看護学生を対象として、疾患の原因・病態と症状・徴候を統合しコンパクトに最新の内容が記載されている。旧版より引き続き、本学客員教授の山内豊明放送大学教授が監修した。米田特命教授が病理病態論の「遺伝子異常」の項を分担執筆した。



ウェルビーイングの社会学

看護福祉学部 道信 良子 教授 分担執筆
(北海道大学出版会、2022)
本書は、ウェルビーイング(人間の安寧)のライフコース的アプローチとその課題について概説している。第11章では、道信教授が社会科学系の学生に向けた小児がんの子どもたちの生活支援について、フィールドワークに基づく結果をまとめている。



観念説と観念論 アイデアの近代哲学史

学術教養センター 渡邊 浩一 准教授 共編著
(ナカニシヤ出版、2023)
プラトンの「アイデア」は近代においてどのように変容したのか。その後継概念である「観念(idea)」から派生した「観念説」と「観念論」を軸に、17世紀から20世紀の哲学者たちの思想を概説した哲学史論集。



マイクロストーリーから読む境界の動態

学術教養センター 加藤 裕美 准教授 分担執筆
(国際書院、2023)
グローバル化により人の移動が日常的にみられるようになった結果、世界各地で移民、難民、国内避難民等が発生している。本書は日本を含むアジア、アフリカ、北米に暮らす移民、難民、外国人労働者などの事例を取り上げ、多文化共生のありかたを論じた1冊である。



新役員等の紹介



理事長
窪田 裕行
くぼた ひろゆき



学長
岩崎 行玄
いわさき ゆきもと



副学長(総括)
図書館長
情報センター長
横山 芳博
よこやま よしひろ



副学長(地域連携)
北島 啓嗣
きたじま ひろつぐ



事務局長
渡辺 利章
わたなべ としあき



学生部長
保健・学生相談センター長
石丸 香苗
いしまる かなえ



キャリアセンター長
新宮 晋
しんぐう しん



特任学長補佐
(ハラスメント対策)
塚原 典央
つかはら のりお



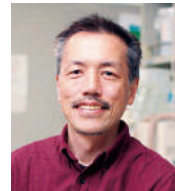
経済学部長
経済・経営学研究科長
杉山 泰之
すぎやま やすゆき



経済学科長
清水 葉子
しみず ようこ



経営学科長
木野 龍太郎
きの りゅうたろう



生物資源学部長
生物資源学研究科長
日井 隆雄
ひび たかお



生物資源学科長
深尾 武司
ふかお たけし



創造農学科長
木元 久
きもと ひさし



海洋生物資源学部長
生物資源学研究科
専攻主任
水田 尚志
みずた しょうし



海洋生物資源学科長
兼田 淳史
かねだ あつし



先端増養殖科学科長
富永 修
とみなが おさむ



看護福祉学部長
看護福祉学研究科長
健康生活科学研究科長
米田 誠
よねだ まこと



看護学科長
笠井 恭子
かさい きょうこ



社会福祉学科長
佐野 治
さの おさむ



学術教養センター長
清水 聡
しみず さとし



地域経済研究所長
松原 宏
まつばら ひろし



恐竜学研究所長
西 弘嗣
にし ひろし



生物資源開発研究センター長
森川 峰幸
もりかわ みねゆき



海洋生物資源臨海研究センター長
佐藤 秀一
さとう しゅういち

新任教員の紹介

経済学科

准教授
加藤 健太郎 かとう けんたろう



(専門分野)
中国経済論、日中経済関係
(担当科目)
中国経済論
「永遠の隣人」中国とどのように向き合うべきか。一期生として過ごしたこの県大で、皆さんと一緒に考えるのを楽しみにしています。

経済学科

准教授
山本 涼平 やまもと りょうへい



(専門分野)
産業組織論、公益事業論
(担当科目)
公益事業論
経済学の身近さを感じられる授業・研究をしたいと思っています。草野球のお誘いお待ちしております。

経営学科

助教
北野 康 きたの こう



(専門分野)
モチベーション、リーダーシップ
(担当科目)
経営組織論
人を動かすマネジメントをテーマに、組織の中の個人行動について研究しています。地域貢献できるよう頑張ります。

生物資源学科

准教授
松井 孝憲 まつい たかのり



(専門分野)
食品機能学
(担当科目)
農産物利用学
生体内のコゲ(糖化)の解明と、食品が人の病気・老化に与える影響を研究しています。一緒に実験しましょう。

生物資源学科

准教授
向山 厚 むかいやま あつし



(専門分野)
タンパク質科学、生物物理学、
時間生物学
生体の営みを支えるタンパク質に備わる巧妙な仕掛けを明らかにすることで生命現象を理解したいと日々研究に励んでいます。一緒にタンパク質研究をエンジョイしませんか!

海洋生物資源学科

准教授
松林 順 まつばやし じゅん



(専門分野)
同位体生態学
(担当科目)
動物生態学
同位体分析という手法を用いて、脊椎動物(海洋・陸域含む)の生態や物質循環を研究しています。

海洋生物資源学科

准教授
山本 昌幸 やまもと まさゆき



(専門分野)
水産資源管理学、資源生態学
(担当科目)
海洋生産環境学、生態遺伝学、
水圏環境学実験
海からの恵みを持続的に利用するため、魚介類の生態や漁獲変動の原因を調べています。海と魚を研究しましょう。

先端増養殖科学科

准教授
西辻 光希 にしつじ こうき



(専門分野)
海藻ゲノム科学、
バイオインフォマティクス
(担当科目)
生命情報科学
植物ではない海藻のゲノム研究などを通じて、一緒に世界初を体感しませんか。

看護学科

助教
松崎 かさね まつざき かさね



(専門分野)
老年看護学、文化人類学
(担当科目)
老年看護援助論、老年看護学実習
ケアとケアではないものの境目を探求しています。考えることを大切にしていけたらと思います。

情報センター

准教授
村田 知也 むらた ともなり



(専門分野)
情報工学、プログラミング教育、
VR、ゲーム、AI
(担当科目)
情報基礎演習、情報科学Ⅰ、
情報処理、プログラミング
ICTのことなら何でもできます。何か困ったこと、協力してもらいたいことがあったらいつでも来てください。図書館2階の奥の部屋にいます。

キャリアセンター

准教授
森本 康太郎 もりもと こうたろう



(専門分野)
キャリア心理学、
キャリアガイダンス論
(担当科目)
キャリア形成論、キャリアデザイン概論、
キャリアデザイン特論
自らのキャリアを、生涯をかけてどのように形づくっていくか、一緒に学んでいければと思います。